

〔平成八年度大会シンポジウム〕特集・思想史の中のライフサイクル——思想史と社会史の接点
(コメント)

網野・横井報告へのコメント

今年度の大会報告は、思想史と社会史を橋渡しするテーマで構成することになった。筆者は大会運営委員として報告準備会等に参加し、さらに報告者である網野善彦・横井清両氏の参加について提案を行ったこともあり、両報告のコメントを引受けることになった。網野氏に依頼したテーマ「社会史からのメッセージ」は、かねて思想史学会として要望されていた問題である。現在歴史学界に於て最もアクティブに、息の長い社会史研究を行っている網野氏に思想史への発言を仰ぐことは最も時宜に叶ったものと感じる。

さて「社会史」の語は、かつて大正時代とくに一九一八年米騒動の前後に、ドイツ国民歴史学派等からの影響

今谷 明

下、わが国の経済学・歴史学の分野で使用されたのだが、マルキシズムの勃興によってこの語の曖昧性が問題とされ、やがて使用されることも少なくなった。この語の使用が戦後復活したのは、いわゆる戦後歴史学に於て余りの階級理論や経済史一辺倒への反省から、純粹経済史の周辺の問題を扱う人々によって、あえてこの語に積極的な意味をこめて使われるようになって以来のことである。従って、ごく乱暴に割切ってしまうと、現在歴史学界で使用される「社会史」の語は、教条的マルキシズムに於ける異端分子（鬼子）によって意図的に拡大されたと言えよう。このことは必ずしも悪い意味で述べているのではない。

さて網野氏はほぼ戦後歴史学界の全期間を通じて活躍してこられた中世史家であり、東寺領若狭太良庄をフールドとする荘園史研究を自己の立脚点とし、さらに供御人等のいわゆる非農業民の研究から天皇制維持存続の謎に迫ろうとし、近年は能登時国家の近世文書の分析から、広く前近代を通ずる「民衆史」の視点で学界の内

外に於て幅広い発言を行っておられる。本日の報告は、中世に於る「無縁の原理」が商品・貨幣等を媒介とする経済活動と深い関係を有するという視角を手がかりに、中世の宗教と経済の問題を包括的に論じようとする、野心的かつ斬新な報告である。網野氏は中世の貨幣・資本が、「神物」「仏物」として広く流通し、これらの預托業務も、多く寺社が行ってきた点に注目する。その上で、寺社の修造事業に従事する勸進聖や上人と呼ばれた「無縁」の人々による経済活動が中世の広汎な「資本主義」の発展を支えたことを明らかにする。以上は、マルクス主義者を自称する網野氏が、「封建制」や「資本主義」という用語の従来の用法自体に疑問を投げかける、恐らく正統派マルクス学者にとっては衝撃的な内容であろう。ただ、問題の設定が野心的なだけに、疑問点もない訳ではない。中世に寺社が行った商品・貨幣を媒介とする経済活動と、近代に於て会社が行う経済活動の、どこが

どう本質的に異なるのか、報告者による厳密な経済学的規定を求める声は少なくあるまい。また中世に於る仏教・神祇思想ではそれらの経済活動はどのように評価されていたのか、思想史学会員としてはその辺を聞きたいとなす向きもあるかと思われる。

次に横井報告は、「生老病死」ことに死の問題を中世史の立場から言及されたもの。氏は代表作『中世民衆の生活文化』以来、差別の問題を一貫して内在的に追求してこられた数少ない研究者で、大会運営委が氏に期待したのも、余人を以ては替え難い氏の研究軌跡からする発言であった。氏は「一期の認識について」と題し、氏自らの生死の境を超えた経験も踏まえつつ、中世人の生死観について蘊蓄を傾けられた。氏は上田三四二氏や吉田満氏らの最近の著作に現われた現代人の死生観を紹介し、ついで史料の限界が厳しい中世人の世界へと入っていく。まず氏が注目するのは、故萩原龍夫氏によって紹介された『熊野観心十界図』に於る上段の橋上の群像図であり、それが近世欧州に於て描かれた「人生の段階」図とモチーフが通底することを確認する。これは人の一生、人生認識が如何に視覚的に行われていたかを示す一つの資料である。続いて氏は『吾妻鏡』建久四年五月条にみえる工藤景光の述懐をとりあげ、ある鎌倉武士の「一期」終末

の自覚の意味を問う。今一つの史料は三宝院満済の寵童
彌々丸が瀕死の床で満済に吐いた「死せむかなう」とい
う語である。氏は、景光の述懐、彌々丸の絶叫を紹介し
ながら、このような中世人の残した言葉をば、「如何よ
うな形の、如何ようなる文体で『歴史叙述』の中に編み
込むことが出来るのであろうか」と問いかける。

横井報告は、網野氏の立場でもある「社会史」的手法
にのっとり、絵画史料や文献史料を駆使して中世人の精
神世界の一端に迫ろうとされたもので、その意味では代
表的な歴史学の方法といえよう。極めて重いテーマをわ
かり易く解説された氏の手ぎわに敬意を表しつつ、なお
今少し結論めいたものを望蜀するのは私のみであらうか。

(横浜市立大学教授)